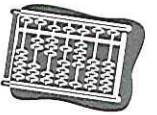




昔の商人は我々に何を教えているのか？



日本には古来地域ごとに様々な商人が登場しました。

それぞれ地域の特性を生かし莫大な財を築き上げてきました。皆さんご存じのところでは、大阪商人、伊勢商人、近江商人、博多商人・・・。

そのなかで有名な商人の例を上げれば、

大阪商人ー 淀屋常安、鴻池(新六)直文(鴻池家創始者)、住友友以(住友家創始者)、下村彦右衛門(大丸創業者)・・・

伊勢商人ー 國分勘兵衛(國分創業者)、小津清左衛門長弘(小津産業創業者)、三井高利(三井家創業者)・・・

近江商人ー 伊藤忠兵衛(伊藤忠創始者)、飯田新七(高島屋創業者)、武田長兵衛(武田薬品創始者)、西川仁右衛門(甚五郎)(西川産業創業者)・・・

このように、専門家でなくても名前だけは知っておられる人物が多いと思います。これらの人々は事業の維持、関係者への諫めとして様々な教訓を残しています。訳あって没落した商家もありますが、創業者以来現在まで数百年にわたって営々と事業を継承されてきた企業を考察すると、創業者、もしくは2～3代目までに、企業管理を行う指針として「家訓」「家憲」「掟」「覚書」を明文化しており、それを代々の経営者が公私の指針として守ってきた企業が多いと言えます。

「家訓」「遺訓」「掟」「覚書」は、調べてみますと現在の経営に全て通じています。その内容を調べれば、下記のように分類できます。

1. 一族協力して「家」「家業」を存続させる。
例：「単木は折れ易く、林木は折れ難し。汝等相協戮輯睦(うぬらあいきょうりくしゅうぼく)して家運の鞏固(きょうこ)を図れ。」(三井高利 家憲)
2. 顧客満足度の向上。(Customer satisfaction (CS))
例：「先義而後利者榮」(義を先にして利を後にする者は榮える)(下村彦右衛門 家訓)「商品の良否は、明らかに之を顧客に告げ、一点の虚偽あるべからず。」(飯田新七 店是)
3. 企業の社会的責任を果たす。(社会貢献すること)(CSR Corporate Social Responsibility)
例：「富好行其徳」(富めば好んでその徳を行なう)(下村彦右衛門 家訓)
4. 法令遵守 (compliance)
例：「御公儀様御法度は申すに及ばず、諸事相背くこと申すまでもない。」(小津清左衛門長弘 「七か条掟書」)

5. 社内統治を充実。(不正排除、能力主義、社内融和等) (corporate governance)

例：「手代を見立てる事専要(せんよう)に候。少なき失をあげて大なる益を捨てる事なかれ。」(三井高平 宗竺遺書)例：「能(よ)く人柄技能を鑑別し、適材適所に用いよ。」(岩崎弥太郎 家訓)

6. 勤勉、努力、気を抜かぬこと。

例：「男女を問わず各業務に勤励(きんれい)するは勿論、日々の仕事を正しく時刻を定め置き働くべき時は働き、休むべき時は休み昼夜起居の時間を正しく定め置き、善き習慣を覚へしむべし。」(藤井彦四郎 家訓)

7. 儉約・質素

例：「固く奢侈(しゃし)を禁じ、厳か(おごそか)に節儉を行ふべし。」(三井高利 家憲)

8. 家長(社長)は清廉潔白、家業に誠実であること。

9. 国家に尽くす。(明治期以降の社訓に多い)

上記は一例にすぎません。数百年も前にこのような発想ができることは経営者としては大変素晴らしく、私などは足元にも及び付きません。

これら先人達の教えは、現在の経営にも全て当てはまると言えます。特に法令遵守 (compliance) は、殆どの家訓で第一項に記されてあります。法令、規則がどのようなものであっても、社会の枠の中で活動する商人にとっては大事なことだと言えます。

しかし、現在の経営者は私を含め、先人が残してくれた素晴らしい教えを忘れていているように思います。今一度、先人達の教えを紐解いてみる必要があるのではないのでしょうか。

日本人は勤勉、質素儉約を旨として働く民族だと思います。この民族性が、経済のグローバル化に伴い、一攫千金を狙い、額に汗して働くことを忘れていていると感じているのは私だけでは無いと思います。



新和商事 株式会社
代表取締役 森下 喜郎

この度、ビジネス向けにケータイを利用したCloud Aceというサービスを開始された株式会社サーパス・Iの田邊代表取締役からその概要をお伺いしました。

(Q) Cloud Aceはどんなサービスの内容ですか。

(A) 時代は、ユビキタス時代へ移行する混沌のスロープの最終段階だと言われています。また、クラウドコンピューティングサービスの登場は、企業にとって ITサービスの価格と価値に対する市場の一般的な認識を変える存在になりつつあります。クラウドサービスは、管理の容易さ、スケールメリット、ワークフォースの最適化などの観点から企業がクラウドサービスの潜在的なメリットを評価したことを受け、現在さらなる発展の初期段階にあります。

このような時代背景の中、Cloud Aceは、クラウドサービスとモバイル端末を融合し、あらゆる業務の「見える化」を可能にしたサービスです。

Cloud Aceは、「あらゆる定型業務の自動化を実現する。」を基本とし、携帯でPOS、携帯で報告書作成、携帯で勤怠管理、携帯で物品管理などなどを行えるサービスです。

現実的な特徴を挙げると

1. Cloud Aceは、必要な結果だけをどこからでも携帯経由で本部のPC等に転送管理できます。

また、リアルタイムの処理を行う事により帰社後の報告書作成も不要となる為大幅な効率化を実現します。

2. 日々のビジネスシーンに欠かせない様々な帳票類など、企業独自の専用フォームから官公庁や法令書類など、どんなレポート生成にも対応いたします。必要な結果を必要な方法で生成します。

具体的には、携帯端末による発注業務、レシート(領収書)発行システム、携帯端末による出退勤管理、発注、出荷、完了のステータスをリアルタイムで管理業務、出退勤のリアルタイム管理、POSシステム同様の役割などの業務に措いて有効的に活用できます。

使い方は 至って簡単で、ユーザーは携帯電話で書類・商品等に貼付されたQRコードを読み取り、サーバーにアクセスします。

『Power Knowledge Station (PKS)』からは『ユニークID』が発行されQRコード化されます。

(バリアブルQRコード) このQRを様々な紙媒体に印字する

事によって様々分野での運用が手軽に実現致します。

「誰が、いつ、どこで、何を」処理したかをデータベースに記録、集計・加工することで、ユーザー企業のあらゆる作業分野においてのリアルタイム管理が可能となります。

(Q) 導入する場合の費用と効果はどのようですか。

(A) Cloud Aceは1からシステムを開発するわけではありませんので短期間で導入でき、しかも携帯だから操作も簡単で担当者のトレーニングも必要ありません。さまざまな基本パターンから業務に合わせてチューニング致しますので短期間かつ低コストで導入が可能です。サービス利用料も 携帯1台あたりの定額制を導入しています。

月額3000円からの利用が可能です。ある企業の場合報告書作成業務に措ける残業代が100万円以上も削減できたと好評を頂いております。

(Q) デメリットやリスクはないですか。

(A) 携帯電話などのモバイル端末を利用したサービス、クラウドサービスやASPサービスについて情報漏洩についての指摘を受ける事が良くありますがシステム上の問題から言うと全く問題ありませんと言って過言ではないと考えています。センター側からの端末の削除等は勿論の事、端末に情報を持たさないという配慮も施していますので、紛失や盗難という対応も万全にしています。

(Q) 貴社の業務内容や設立の主旨をお教え下さい。

(A) 「効率よりも「効果」を! 売上規模よりも「ありがとうの利益」を! そして何より、自分のお客さまと世間さまに対して、真面目で真摯な姿勢と 行動をする経営者の役に立つ事!」をテーマに、経費削減サービスの提供売上UPサービス提供などを主たる事業としています。

具体的なサービスとしましては紙面の関係上ポイントのみ説明させていただきますが、「Cloud Ace」の他に「SNS実践活用サービス」「電子契約システム導入によるコスト削減等のサービス」「食品スーパー、ドラッグストア向けの販売支援とコスト削減等のサービス」提供も開始します。

詳しくは当社にお問い合わせ下さい。

株式会社サーパス・I 代表取締役 田邊 幹史

E-mail: tanabe@naturelinks.jp

◆大阪と海外とのビジネス支援をされているIBPC大阪ネットワークセンター（大阪市の団体である財団法人大阪国際経済振興センターの一部）から業務の内容についてお問い合わせしました。これからの海外ビジネスにご活用されてはいかがでしょうか。

- (Q) 現在の主な業務内容について教えてください。
- (A) アジアなど海外に自社製品を売り込みたい、貿易取引を行いたい、拠点を設立したい、という企業、主に在阪中小企業を対象に、海外ビジネス支援を行っています。具体的には、貿易事情に精通した常駐アドバイザーによる貿易・引合相談、中国・ベトナム・インドの各専門家と面談できる「ビジネス相談」、経済セミナーの開催による海外最新ビジネス情報の提供、商談会開催や海外展示会出展支援・ミッション団派遣によるビジネス機会の提供等々です。
- (Q) 注目されているアジア地区のネットワークについて教えてください。
- (A) 大阪市は、アジア太平洋地域とのビジネス連携を構築するため、1988年から「ビジネスパートナー都市（BPC）」提携を行い、現在大阪を含め14経済都市のネットワークを形成しています。年1回、各都市代表者が一堂に会する「ラウンドテーブル会議」、そして各都市の実務担当者を大阪に招聘する「人材研修」事業などで、このネットワークを強化し、ビジネスマッチングや情報収集に役立てています。各種事業は、現地や在阪のBPC提携関連機関のご協力を得て行っており、また、他経済団体とも連携しています。
- (Q) ご相談する場合の手続きや料金、オフィスの場所を教えてください。また会員外でも相談可能ですか。
- (A) お電話やメールなどお気軽にお問い合わせください。基本的に利用料金は無料です（有料セミナー等を除きます）。オフィスは大阪南港のATC（アジア太平洋トレードセンター）ビルにあります。海外ビジネスでサポートが必要な際、是非ご利用ください。会員に限りませんが、サポーター的な「IBPC大阪」会員には特典もございます。
- (Q) 会員の加入条件、年会費など教えてください。
- (A) 現在は企業の規模により会費が異なりますが、会員サービスを充実すべく、会費等の見直しを行っております。決定次第ホームページ等で告知いたしますので、是非ご覧ください。主催もしくは他団体開催のビジネスセミナー等の情報をお知らせするメールマガジン会員（無料）は随時募集しておりますので、是非ご登録ください。

財団法人 大阪国際経済振興センター [IBPC大阪ネットワークセンター]
<http://www.ibpcosaka.or.jp/>
 Tel 06-6615-5522 Fax 06-6615-5518
 Email nc@ibpcosaka.or.jp



クロスボーダーな仕事観

日本国内のベンチャー企業への投資に携わり早13年が経ちました。現在も投資先の事業成長をサポートする活動を継続しているわけですが、新規投資活動の方は、ここ数年で状況が大きく変わりました。基本的に日本という市場は少子高齢化が進行し、事業の「成長」が描けない、つまり投資の対象としては大変魅力の乏しいマーケットになってしまいました。

そのような中、近ごろ投資の相談で多くなってきたのは、海外への事業展開を目指そうとするメーカー系の中小企業や、日本国内で起業しても全世界が対象市場となるようなモバイルIT系（スマートフォン関連市場）のベンチャー企業です。

モバイルIT系のベンチャー企業は、これまで日本独自のルールで市場が開鎖的に形成されてきた携帯電話市場と異なり、スマートフォンの分野では開発したアプリケーション等が世界共通のプラットフォームでグローバルに展開が可能となります。投資効率は極めて高く、また市場成長性も大いに魅力があります。

海外進出を目論むメーカー系の中小企業は、円高や原発事故による電力料金の値上げ等の動向から製造拠点を海外へ移す思惑もあると思いますが、やはり市場の成長期待の高さに魅力を感じて新興国へ製造拠点を求めていくようです。

中には、次のような目論見を持ってシンガポールへ現地法人を立ち上げる自動車部品メーカーもあるようです。

現地法人の代表者は、ご自身のご子息。ASEAN諸国で製造拠点の立ち上げを行い、数年後には日本法人（創業者）より売上規模が大きくなると予想。規模が逆転した時点で、税制面で魅力のあるシンガポールで現地法人を上場させて、日本法人をその傘下へ収めてまいります。事業承継のスキームとしては面白い試みだと思えます。

これまでのように、日本国内だけをターゲットとしたビジネスプランであっても、事業として成立することは困難ではないかもしれませんが、こと投資の観点としては、市場成長期待の高い国へ展開する事業の方が、投資家の理解を得やすい状況にあると考えます。私自身は投資家の立場ですが、慣習に囚われることなく、軽々と国境を越えて仕事ができるように意識を変えていきたいと思えます（その前に、外国語の勉強をしなくてはなりません）。

VECレポーター（キャピタリスト）

「本場LAで本格的なダンス・レッスンを受けてみる」

いきなりユーロ安だの円高だので始まった2012年ですが今年もよろしくお祈りします。

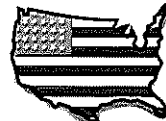
さて、円高に泣いてばかりはいられません。せっかくなのでこんな時こそどんどん“海外旅行”に出かけましょう！当社では確実に円高の恩恵にあずかることができるドル建ての旅行をたくさんご用意しておりますが、中でも今大変人気の『LAダンス留学』をご紹介します。

現在の日本のストリート・ダンス人口は300万を超えたとされており、小さな子供たちから大人まで実にたくさんの人達がダンス・スクールに通うなどしてダンスを楽しんでいます。そういう方たちにスキル・アップとしてお薦めしているのが本場LA（ロサンゼルス）でのダンス留学です。LAにはミレニアム、エッジ、デビー・レイノルズといった、アメリカの著名アーティスト達もレッスンに訪れる有名なダンス・スタジオがあるのですが、そのスタジオで実際に1週間からレッスンを受けることができるのです。

本場のレッスンと聞くと難しいように思われがちですが、ダンスの種類もたくさんあり、それぞれのレベルに合わせて皆さんのレッスンが用意されているので自分にあったレッスンを自由に受けることができますようになっています。レッスンは英語ですが、ダンスに国境はないようで今までたくさんの方がご参加されていますが、レッスンについていけなかったという声はまだまだありません。ただ、レッスン以外のところではもちろん英語が必要になってくるわけで、参加する上でまず心配されるのは「英語が話せないけれど大丈夫？」ということですが、ご安心ください！ロスの空港にさえ着いていただければ、それ以降ご出発までは現地の日本語が話せるスタッフが万全のサポートをいたします。また、滞在先も日本語が通じるホテルと、英語は通じないけれど世界中から集まる観光客と友達になるチャンスがあるホテルの2種類をご用意していますので、ご希望に合わせてお選びいただけます。

語学学校に通うことも可能なので、ダンスだけの1週間のプチ留学から語学学校にも通いながらの本格的な長期留学までお好きな形でご参加いただけます。昨年は初海外で一人参加の高校生もたくさんありました。お近くにダンスをされている方がありましたら、是非このプログラムをご紹介ください！

詳しくは<http://www2.odn.ne.jp/astravel/dance/dancetour2.html> をご覧くださいか、担当までお問い合わせください。



<お問合せ先>
 アストラベルサービス（株） 担当：大竹 智子
 Tel：06-6947-7190
 E-mail：as-travel@pop16.odn.ne.jp

～5機関合同によるベンチャーとサポーターとの交流会が開催されます～
 ベンチャー支援中の5機関（大阪商工会議所、大阪産業創造館IAG、関西ニュービジネス協議会、大阪NPOセンター、VEC関西支部）の協働による合同交流会が開催されます。当日はベンチャーとエンジェル（企業オーナー）、公的機関、VC、金融機関等サポーターによるベンチャーへの支援と交流が行われます。
 入場ご希望の方はVEC関西支部までご連絡下さい。
 開催日時：平成24年3月28日（水） 午後1:30～4:00
 場 所：大阪産業創造館 4F イベントホール
 入場は無料です。

～VEC関西より～

◆2月16日は伝統ある会員制社交クラブ「綿業会館」でVEC関西新年会が賑々しく開催されました。例年通り沢山の方がお集まり頂きました。講師は、古くからVECの企画委員をお願いしておりました株式会社二プロンの酒井社長にご講演いただきました。仕事一途に取り組んでこられただけに、迫力満点のお話で、感動でした。有難うございました。（本田）

♥今年のVEC新年交流会は綿業会館で開催されました。重要文化財の建物であり各部屋、調度品などひとつひとつに重厚さが溢れ、当時のデザインの素晴らしさに感銘しました。震災にもまぬがれ、昭和から現代までを見る貴重な歴史遺産をこれからは違った観点で建物を感じると思います。（濱本）

♣東日本大震災発生から1年目を迎えます。3月号も関西を、日本を元気にして行きたいと言う思いで色々な分野の方々からベンチャー精神一杯のご寄稿を頂きました。（澤村）

◆<交流会の予定>
 平成24年4月10日（火） すいな（推拿）整体サロンSHANTI 代表
 テコンドー 元日本代表 畠中 恵美 様

☎06-6263-0366

皆様からのご意見・ご要望お待ちしております！